

第19回酪農諮問委員会 実施概要

1. 2019年10月8日、雪印メグミルク(株)本社

2. 出席者 諮問委員：高取 剛 (元標茶町農業協同組合 組合長)
黒沢 寛寿 (元全国酪農青年女性会議 委員長)
伊藤 強 (元東北生乳販売農業協同組合連合会 代表専務理事)
鈴木 宣弘 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
矢坂 雅充 (東京大学大学院経済学研究科 准教授)
清水池義治 (北海道大学大学院食料農業市場学研究室 講師)

当 社：西尾社長、西馬場副社長、本井副社長、小板橋常務、池浦常務
事務局 (酪農総合研究所)

4. 開催内容

今年度の諮問テーマは【新しい酪農環境への酪農乳業の対応】とし、今回は、「基本計画の見直しと酪肉近方針の改定を控えた生産現場の課題について」、ご意見を伺いました。

二つの大型貿易協定など国際化の進展によって、乳製品や肉類などの輸入が増加基調となり、一時的ではなく、発効以降、恒常的な輸入増加と言え、国内生産基盤の弱体化と相俟ってさらなる自給率の低下が懸念されます。加えて、日米貿易協定交渉も、参院選を終えていよいよ本格的な交渉が始まり、両国とも早期の合意を目指すとされています。

生乳生産は、引き続き北海道が堅調に推移し、ますます都府県の需要補完を担う様相となり、いっそう生産格差が拡大する見通しとなっています。

このような国際化への対応や国内の生産基盤の強化が課題となる中、5年ごとの「食料・農業・農村基本計画」の見直しと「酪肉近基本方針」の改定に向けた検討が進められており、今後の酪農乳業の目指すべき姿が関係者にとって納得感と意欲ある内容で示されることが期待されています。

これらの情勢を踏まえて、ご意見とご助言をいただきました。

